

**2021年1月号（12月3日発売）**

**特集「江戸東京お寺散歩」**

**いまこそ寺へ！いまどきの寺の楽しみ方を指南。**

江戸時代、寺は単なる「お参り」の場所ではなく、庶民にとって格好の行楽地（リゾート）であり美術館であり教育施設でもあった。近年、檀家の減少や直葬の増加などの危機感から、若手住職たちを中心に再び「寺を人々が集まる場に」というムーブメントが活発化している。江戸期における文化の発信地としての寺の成り立ちや役割を伝えるとともに、現代における新しい寺の楽しみ方を提案する。

【主な内容】

◆座談会「いざ、お寺新時代へ」

松本紹圭（光明寺住職）× 柏木正博（大正大学地域構想研究所 副所長）×安永雄玄（築地本願寺、宗務長）　司会・構成　松崎香織（社団法人「未来の住職塾」理事

◆開かれた寺　文・星野哲（立教大学社会デザイン研究所研究員）

テンプルモーニング（神谷町光明寺）／築地本願寺クラブ／終活セミナー（江東区光明寺）／座禅（広尾祥雲寺）／死の体験旅行（なごみ庵）／お寺図書館（経王寺）

◆寺グルメ　文・大浦春堂

◆お正月にオススメ　七福神札所めぐり（元祖山手＆谷中七福神）めぐり

◆モダニズム寺院建築案内

善照寺（白井晟一）、川島甲士（妙経寺）、祝言寺（内井昭蔵）、松源寺 （川島甲士） 文・倉方俊輔

◆外国人目線の谷中寺町さんぽ　案内人・マンガ家　小栗多里

◆寺こそ江戸最大のワンダーランド　文・滝口正哉　江戸文化研究家

◆徳川家による江戸の都市計画と寺の配置　文・岡崎哲志　都市史学者

◆江戸のお寺の改宗（幕府とのバトル）感応寺／法名寺　文・黒田涼

◆対談「私の偏愛する東京の仏像」　　はな×東博学芸員

◆隈研吾インタビュー（寺院建築）

【ご注文先】　都市出版株式会社 　TEL０３－３２３７－１７０５　　市川、久崎（ひさざき）行

**FAX０３－３２３７－７３４７　　　　　　　申し込み締切1１月1２日**

　　　　　　↓帖合印　　　　　　　　　　年　　　　月　　　　日

**月刊「東京人」２０２１年１月号**

**特集「江戸東京お寺散歩」**

**雑誌コード　16725-01**

**定価950円（本体864円）**

冊